



対馬市議会で 寿都の現状報告

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会 広報紙 No.51 2023年9月号

山場を迎える対馬の核ごみ文献調査応募判断

長崎県対馬市で、核ごみの文献調査をめぐる議論が山場を迎えています。今年に入り、市議会議員の間で調査応募への動きが始まりました。6月には建設業界や商工会が、市議会に対して調査応募を求める請願書を提出する一方、市民団体や一部の漁協は、応募反対の請願書を提出しました。対馬市議会はこれらの請願書を審議するために、議長を除く18人で構成される特別委員会を設置しました。特別委員会は、7月10日と21日に応募推進/反対の請願を出した11の団体から意見聴取を行いました。

調査推進の請願理由は、雇用の確保や地域経済の活性化などです。調査反対の請願理由は地域の分断への懸念や美しい自然の保護などです。寿都での賛否の理由と似ているのではないのでしょうか。

調査推進の請願理由

- ・雇用確保や地域経済の活性化により人口減少に歯止め
- ・対話の場で町づくりの議論を行うことは将来ビジョンの一翼を担う
- ・最終処分事業は世界最先端の土木プロジェクト
- ・複数地域での文献調査実施が望まれている

調査反対の請願理由

- ・対馬のイメージダウンによる第一次産業や観光業への打撃
- ・先祖代々受け継がれてきた風光明媚な対馬を継承
- ・被爆県である長崎の県民感情に配慮
- ・市民の合意形成がない
- ・地層処分の技術的安全の未確立



←対馬の烏帽子岳から見える景色

対馬の和多都美神社から見える景色→



8月に入り、調査賛成/反対の専門家に対する参考人質疑も実施されました。2日には、賛成の立場から経産省とNUMOが発言しました。翌3日には、反対の立場から原子力資料情報室の高野聡氏と、はんげんぱつ新聞編集長の末田一秀氏が参加しました。

何度も寿都を訪問した高野さんは、調査賛成の団体や議員は寿都の現状がよくわかっていないと感じており、地域分断の事例や対話の場の不公正な運営について取り上げました。調査実施以降、核ごみの話題を避け、会話がなくなったり、賛成/反対住民がお互いのお店に行かなくなったりするような状況を伝えました。対話の場では調査賛成のメンバー中心で町づくりが議論され、住民を青森県六ヶ所村に格安で連れて行くなど懐柔が行われている現状を報告しました。町づくりの原動力であるコミュニティの絆が大きく傷付いてしまうこと、そして地域分断を語るたびに町民の会の人たちが流す涙の重みを、対馬市民はしっかり想像してほしいと訴えました。

その後、8月16日の特別委員会で、請願書の採択が実施されました。調査推進の請願に対して、賛成議員が9名、反対議員が7名でした（委員長には投票権はなく、1人が病欠）。賛成多数で採択されてしまいましたが、請願が出された当初は賛成11名、反対3名、中立4名だったことを考えれば、反対議員がずいぶん増えました。

今後の焦点は、9月12日から開催される定例議会です。ここで正式に調査推進の請願に対する議決が行われます。対馬市議会には、寿都のような分断はもう二度と起こってほしくないという町民の会の想いをしっかり受け止めて、賢明な判断をしてほしいです。



寿都の現状を報告する参考人たち

片岡町長が対馬市議会に提出した意見書は？

対馬市議会は、文献調査がすでに実施されている寿都町の現状を把握するために、片岡町長に意見を求めました。片岡町長はそれに応じ、7月31日付で意見書を提出しました。メリット、デメリットを論じたその説明に納得できますか？

・メリット等について

文献調査が実施され2年間で20億円

の交付金（電源立地地域対策交付金）が得られ、地域振興活性化に資する事業に活用することができます。（中略）

文献調査が着手されることで多くのメディアに取り上げられ、町の知名度が向上することもメリットと捉えることができるのではないのでしょうか。本町は主に水産加工品を返礼品としたふるさと応援寄附金事業を展開しておりますが、

はっきりとした因果関係は確認できないものの、寄附金額及び件数は増加傾向にあります。

さらには、文献調査に対して賛否はありますが、まちづくりの現状や将来へ多くの町民が興味関心を寄せるようになっていただいたことは良いことではないかと思えます。

・デメリット等について

町民の皆様へ不安感を抱かせてしまっていることは否めません。

ともすると「原子力」「核」という言葉が即「危険である」「環境破壊」というイメージや感情に直結してしまうのが現状

であり、放射線等の知識不足や、調査内容が世間に正確に伝わっていないことが要因であるものと考えております。このイメージや感情に対して科学的な知識に基づいた説明によって理解を得ることが何より重要なことと実感しております（中略）。

文献調査はあくまで地質や地盤に係る現存のデータや専門家による学説を集める机上の調査に留まるものでありますが、調査に対する風評被害を訴える方も多くありました。しかしながら実際に根拠の無い、風評被害がおこるといふ声こそが、風評被害を招くものであると考えております。

片岡町長の意見書に対する抗議声明

町民の会は、片岡町長の意見書に対して、14日に抗議声明を公表しました。対馬でも調査応募によって地域の分断が起こってほしくないという願いを込めた声明の概要をお伝えします。片岡町長の意見書と町民の会の抗議声明のどちらが真実に近いのか判断してください。

・町の知名度の向上？

文献調査への応募によって、寿都町が多くのメディアに取り上げられたとしても、本当の意味で知名度が向上したとは言えません。故郷を愛するたくさんの町民が心を痛めています。町長は、そのような町民の想いをしっかりと認識すべきと考えます。

・まちづくりに町民が興味関心を寄せるようになった？

町長の調査応募の最大の目的は、電源

交付金ですが、労せずして補助金を得ることは、まちづくりとは言えません。町民への説明を欠き、協働を実施せずに一方的に町政運営をしてきたことを棚に上げたまま、このような発言をするのは、業務怠慢の現れであり、こつこつ地道に働いて生活してきた町民に対して、大変失礼です。

・風評被害がおこるといふ声こそが、風評被害を招く？

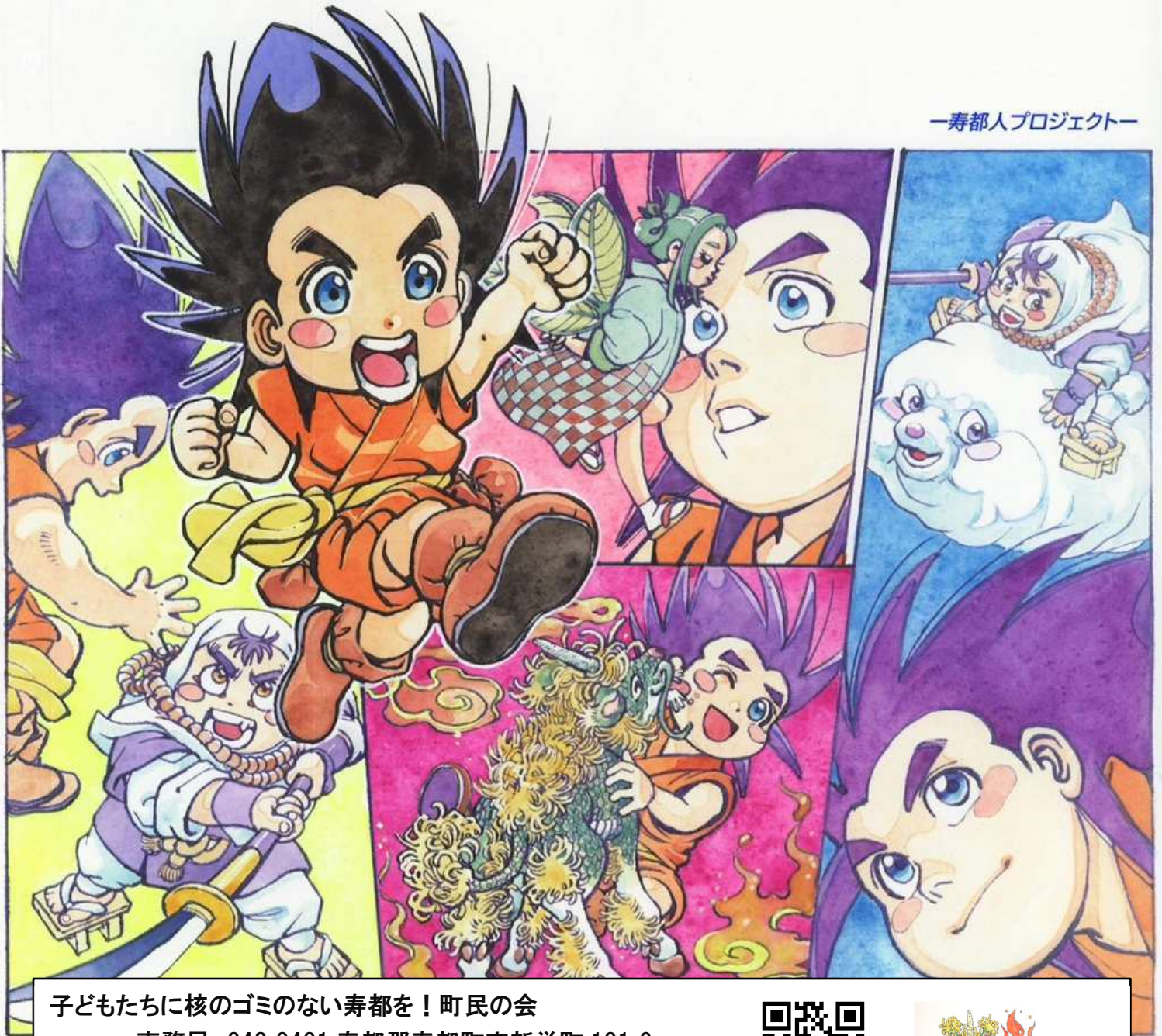
消費者から「もう買わない」という電話などを受けている実態があります。問題の本質は、実際の被害を直視せず、一部の者に責任を押し付ける町長の不誠実極まりない態度です。寿都町内外の関係者らが長年培ってきたブランドと寿都町のイメージに泥を塗ったことへの、町政のトップとしての責任が微塵も感じられないこの発言に、強く抗議します。

あなたの想いを...

この一票に...

選挙に行こう！

—寿都人プロジェクト—



子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

事務局 048-0401 寿都郡寿都町字新栄町 101-6

TEL/FAX : 0136-62-3630 kakugomino@gmail.com

HP : <http://kakugomi.no.coocan.jp/>

FB : <https://www.facebook.com/106569234530018/>

北海道銀行寿都支店(店番号 304)普通 0481374

ゆうちょ銀行 記号:19070 番号:44246811



2023年9月号 (No.51)